

商業施設新聞セミナー レポート

「次世代型商業施設を探る」

コンサル、SC、百貨店3者が講演

商業施設新聞は11月29日、東京・御茶ノ水の明神会館において、今後の時代をリードする小売店の業態開発や魅力あるショッピングを紹介するセミナー「潮目は変わった！次世代型商業施設を探る」を開催した。160人が参加した。

基調講演では、(株)創造研究所代表取締役の松本大地氏が、商業施設の同質化やオーバーストアなどの解決策として、生活者に支持される独自性により選ばれる「価値組」になることを提案した。モノの先にある、生活者のライフスタイルを豊かにする「ライフスタイル業態」が必要。業態



講演する松本大地氏

確立のキーワードは「社会交流欲」であり、次世代型商業施設に欠かすことのできない要素であると説明した。また、米國オレゴン州ポートランド市を事例に、行政ではなく市民が率先して行う街づくりや、商業施設を自ら見たこと、感じたことをレポートした。

さらに、30歳未満の単身女性の可処分所得が男性を初めて上回ったこと、また日本人男性が海外諸国と比べて家事を手伝わないとい

う実態を紹介。月に1日、男性が仕事を早く終わらせ、家事をし、女性が夜はゆっくりと買い物できる「シンデレラナイト」を実践してはどうかと提起した。

続いて、三井不動産(株)商業施設本部部長補佐の安達寛氏が、「次世代SCに求められるデベロッパーの開発力と運営力」をテーマに講演。様々なイベントを開催し、圧倒的な人気と集客力を誇る「ソニーナ川崎」をはじめ、同社が開発した商業施設の事例を紹介しながら、立地や商圏に応じた開発コンセプト、施設づくりを説明した。また、同社が得意とするマーケティング戦略や環境への取り組み事例を交えながら、同社が目指す「Solution Center」の熟成に向け、環境、健康、教育が

成長テーマと語った。百貨店からは、大型リニューアルで注目が集まる(株)三越銀座店店長の安達辰彦氏が、「時代の扉をひらけ 銀座三越 マイデパートメントストアを目指して」と題した講演を行った。既存施設と増築部分の融合、動線づくり、新しい銀座店としての売り場構成について説明した。銀座店の改装は、地域と一体化した開発であり、街づくりとしての開発コンセプトにも触れ、三越銀座店から東側に人の流れを生む仕掛けや、屋上緑化を施した銀座テラスの整備により、銀座を訪れる人が誰でも憩える空間づくりを行ったことを強調した。

3氏の講演を経て行われたパネルディスカッションでは、商業施設新聞 松本編集長が加わり、講演で語られた「少子高齢化」「IT」「環境共生」といったキーワードについて、より深い議論が行われたほか、受講者からの質問に基づいた様々な意見が飛び交った。